

令和2年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

1 本年度の学校経営方針

(1) 教育目標

ともに学び、仲よく遊ぶ児童を育てる ～自ら考え、学び合い、希望を高く～

(2) 校訓

【明く】

【清く】

【強く】

めざす学校像

- 1 保護者、地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校
- 3 環境が整備されたうるおいのある学校

めざす児童像

- 1 あいさつができ、友とわかり合う子
- 2 真剣なまなざしで学習にのぞむ子
- 3 健康で明るく元気に遊ぶ子

めざす授業像

- 1 児童全員が主体的に参加する授業
- 2 児童同士の関わり合い、学び合いがある授業
- 3 言語活動を通して、伝え合う力を高める授業

求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上をめざす教師
- 3 児童の人権を大切にする教師

(3) 学校経営の基盤とするもの

- ・児童のよさや可能性を伸長させ、自己肯定感や自己有用感を高揚させる指導の充実を図る。
- ・すべての児童に基礎・基本の徹底を図り、主体的に学び続けるための指導方法の工夫改善を図る。
- ・児童が安全で安心して生活できる校内体制整備と充実を図る。
- ・保護者・地域とともに歩む学校づくりを進める。
- ・すべての教職員が、職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、塩屋小の一員であることが誇れるような「働きがいのある学校」を目指す。

(4) 重点課題

① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・学習成果の発信
- ・学校評価、保護者アンケートの教育活動への反映
- ・ふるさと意識の醸成

③ 配慮を要する児童への対応

- ・児童の内面理解
- ・実態に応じた支援・指導の計画
- ・保護者との共通理解と連携指導
- ・常に「気かけ」「目をかける」意識

⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・きまりを守ろうとする意識
- ・公共物や施設を大切にする態度
- ・相手を大切にした言葉遣い
- ・行儀・礼儀を高める指導
- ・自転車使用時のヘルメット着用

⑦ 不登校の解消・いじめへの対応

- ・未然防止のための取組
- ・早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・家庭・関係機関との連携指導
- ・情報モラル教育の推進

② 学力向上への授業改善・授業力向上

- ・授業のスタンダード化(授業公開ウィークの実施)
- ・全員が意欲を持って参加できる授業づくり
- ・学び合いがあり考えが深まる授業づくり
- ・基礎学力を獲得できる授業づくり

④ 特別支援教育の充実

- ・職員の理解と実践力の更なる向上
- ・校内指導・支援体制の確立
- ・関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究・実践
- ・保護者・地域への啓発

⑥ 危機管理意識・管理体制の確立

- ・安全配慮義務の徹底
- ・防災体制・防災意識
- ・地域安全体制の確立
- ・食物アレルギーへの理解と対応の体制
- ・対応マニュアルの見直し

⑧ 学校組織力の向上・学校業務改善

- ・教育目標・重点課題の共有化
- ・学校評価システムを活用した学校運営
- ・職員の協働体制、成果の共有化
- ・学校業務の工夫改善

(子どもと向き合う時間の確保、メンタルヘルスの保持・増進)

【総合的な学校関係者評価】

・本年度は、新型コロナウイルス感染対策により本来の塩屋小学校の力が出し切れなかった様ですが、外部から感じる印象は、安全・安心を元に先生・児童達共がんばっていかうとする方向性が理解できました。

・令和2年度は、新型コロナウイルス蔓延のためほとんどの行事の変更や中止、または縮小で大変な年であり、学童の指導も大変だったと思います。コロナ禍の中で可能な行事や活動を考えてもらえるようお願いいたします。

・本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止で地域の行事、学校の行事が縮小、中止で参加、交流ができなかったが、学校全体で感染防止に努めて大変だったと思う。子ども達も早く元気になってほしい。

・保護者や地域の連携のもと、学校・児童ともに目指すものになっているように思います。また、先生方には、児童が意欲をもって学べるよう指導してもらえたらと思います。

・コロナ禍ということで、誰もが経験していない場面ばかりで教育現場も混乱の日々だったと思います。オンライン授業、感染対策など様々な課題があるかと思いますが、一つずつ解決していかうてください。令和2年度は、そういう意味では、よく頑張って現場を支えてくれたと思います。

・今年度はコロナウイルス対策に始まったような1年だったと思います。その中でも学校関係者の方々はとてよくやってくれたと思います。色々な行事もできないかと思っていましたが、形を変えたり、少し小さくしたりとなんとかできるようにがんばっていただけました。来年度もまだまだ大変だとは思いますが、子ども達が安心して安全に学校生活を送れますようお願いいたします。

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実録の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される児童の姿)				
① 保護者・地域との連携	項目	児童の主体的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート 入学式	A	○児童アンケートの結果からも「学校に来ることが楽しい」と答えている児童が95.8%と数値は高かった。その反面、「いいえ」と答えた児童もいることを念頭に置き全職員で共通理解し、楽しい学校づくりをしていく。
	指標	毎日楽しく学校に来ている	保護者アンケート		
	項目	各通信・オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート ホームページ	B	○今年度は、コロナの影響で学校の様子を伝えていることが難しく、保護者・地域の方の理解につながりにくかった。今後も情報発信に努め、保護者・地域とのよりよい関係作りに継続して努める。 ○ホームページを定期的に更新することで、更なる開かれた学校作りを目指す。 ○コロナの状況にもよるが「しおっ子応援倶楽部」の力を活用して地域の協力を得ることで、充実した活動を行うように今後も努める。
	指標	忘れ物をせず、準備物がそろう	保護者アンケート		
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 個別面談	B	○家庭学習のあり方(方法・量・内容など)を吟味した上で、児童が主体的に家庭学習を行えるように学級活動などを通して指導し、全職員共通理解のもと、家庭での学習習慣を確立させ学力向上を目指す。PTA総会や学級懇談会等を通じて、家庭学習の大切さについて伝えていく。
指標	家庭学習を家庭でこなし、きちんと提出している	保護者アンケート			
② 確かな学力	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか	児童アンケート 自主学習	B	○コロナウイルスの感染対策を行いながら、できる限り児童同士の関わりを全教科・領域において積極的に図り、児童が互いに支え合い、認め合える、分からないことが分からないと伝えられるような主体的・対話的な学びの形へと近づけるよう心がける。 ○理解が遅い児童がその授業の中で学習内容を理解できるようにするためにも、ICT機器や児童生徒支援教員を活用するなど、個別の対応を増やし、自信をもたせる。
	指標	学校の勉強が楽しく分かりやすいと感じている	保護者アンケート		
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等	A	○授業のめあてを児童に確実に提示し、学習の中学生を一人一人の児童に把握させた上で授業を展開していく。また、学習理解が学習意欲向上につながるの、まず、児童の実態を把握し、児童の興味・関心に合わせた教材を工夫し、スモールステップで達成感を味わわせながら意欲的に学習に取り組めるようにする。
	指標	学習内容を目当てに沿ってまとめたり発表したりすることができる	保護者アンケート		
項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート	B	○休校期間中の家庭学習で、学習の仕方が身についたという児童もいたが、なかなか自ら学習に向かう児童が少なかった。これからも、家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣を身につけることの大切さについて、児童・保護者ともに丁寧に働きかける必要がある。 ○自主学習を推奨し、自己の課題をつかみ、解決策を探り、自分に合ったよりよい家庭学習の仕方を自己決定するなど、家庭学習について考える機会を設ける。	
指標	学年相応の漢字・計算を確実にこなすことができている	保護者アンケート			
③ 健やかな体	項目	「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか	児童アンケート 学年通信・保健だよ	B	○「健やかな体＝生活リズム」ということで、アンケート等を活用し児童の実態調査を行うとともに、養護教諭とも連携しながら学活等の時間を活用し、指導を行うようにするとともに、保健だよを通して保護者にも働きかけをしていく必要がある。
	指標	「早寝・早起き・朝ごはん運動」の目標を設定し、守っている	保護者アンケート		
	項目	望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○まずは児童一人一人が食べられる量を設定し完食できることをスタンダードとし、学級でルールを定めたり食の意味を保健・学活等において指導することで、嫌いなメニューを少なくしていけるようにする。家庭へも改善することの意識を訴えながら、体力づくり、身体づくりに意識が向かうようにする必要がある。
	指標	落ち着いた雰囲気では給食を食べている(準備・片づけ含む)			
	項目	一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか	児童アンケート 個別の指導計画	B	○学年が上がるに従って低い数値となる傾向がある。良い気候の時は「外で遊ぶday」を徹底できるよう、学年学級での声かけを行うとともに、休み時間を十分に確保し、外遊びのしやすい環境作りに努め、教師も外で一緒に遊べるよう心がける。
指標	外で元気に遊んでいる	保護者アンケート			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	○	・コロナの影響で保護者の方の理解が得られなかった。 ・今年はどうしても人と集まることが難しかったので、仕方が無いように思います。
◎	○	・休校が長かったので、家庭学習が身についた。 ・保護者としては、学力がとても気になるところです。来年度もよろしくお願ひします。
◎	○	・教師も外で一緒に遊ぶようにしたら児童も楽しめる。 ・自分の家も含めて、「早寝・早起き・朝ご飯」平日はできますが、休日になると少しできなくなるとおもいます。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	項目	指標			
④ 豊かな心	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○教育支援委員会など各種委員会を定期的に行うことで、児童に寄り添う指導を行う。
	指標	困ったことを相談することができる			
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○特別活動の充実によって、多様な人との関わりを通して人権感覚の育成に努める。 ○日々新たな人権問題が出てくる中で、その都度、職員研修を行い、人権に対する感覚を共有していく。
	指標	友達の良さががんばりを見つけ、広めようとしている			
	項目	全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的実践力を育成するように努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○道徳教育の教科化に伴い、授業改善、授業研修の機会をもち、教職員の指導力向上を図る。 ○児童の実態を把握して適切な資料を選定し、道徳をはじめ各教科で学んだことが生活に生かせるようにする。
	指標	道徳の時間で学んだ価値を、生活の中でいかそうとしている			
⑤ 生徒指導	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 個別面談 保護者アンケート	A	○学校のきまりや約束など、生活指導委員会を中心にその時期に応じた内容を話し合い、全職員共通理解のもと継続して指導にあたる。
	指標	きまりを守り、正しい生活を心がけている			
	項目	不登校に係る諸問題について、未然防止、早期発見、早期対応するとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしなが、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 保護者アンケート 学校生活アンケート	A	○いじめアンケートの結果をもとに、未然防止の観点から小さな案件もいじめと捉え、いじめの芽を摘み取っていく。 ○不登校の未然防止に努めるために、不登校・児童虐待対策委員会の更なる充実を図る。
	指標	困っている友達に関わろうとしている			
⑥ 児童をとりまく環境の整備	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○毎月の安全点検を教職員が分担して行い、児童にとって危険な箇所を速やかに修繕できるように来年度も継続して行う。 ○新型コロナウイルス感染防止対策も引き続き行う。
	指標	生活目標をきちんと守って生活している			
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○生活指導委員会を中心に「無言清掃」の継続的な呼びかけが子どもたちに変化をもたらしたのは確かであったので、廊下歩行、挨拶、トイレのスリッパ、言葉遣いなど、引き続き教職員が共通理解して指導していく必要がある。
	指標	掃除をすることの意義を理解し、美しい環境を保っている			
	項目	友道を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○友達を「くん」「さん」づけて呼ぶなど、優しい気持ちで接しようとする児童が増えてきている。できていること、伸びていることを児童に伝え続けることで、よい習慣を定着できるように努め、引き続き、教職員が共通理解して指導していく必要がある。 ○道徳を中心に、各教科だけでなく休み時間等も人権意識を高くもち、指導にあたる。
	指標	友道を大切にしたい呼び方をしている			

【自己評価における特記事項】

・今年度は、コロナの影響でこれまで通りの学習活動や行事ができず、全体的に数値が落ちている。

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	○	・人権問題は職員研修を行い、共有しておくが良い。 ・コロナ禍で行事などがなかなかできなかったため、来年度は形を変えながらもできるようになれば良いと思います。
◎	○	・学校のきまりや約束などは、児童は守っていると思う。 ・何もありません。素晴らしいと思います。
◎	○	・安全点検は行い、児童に伝え、早く修繕を行う。 ・やはり今は、コロナ対策が大切だと思います。少しでも不安をなくせたらもつと思いきり、勉強・運動できるようになると思います。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○学校行事の精選を行うことで、学力向上に向けたじっくり学習に取り組む時間を確保する。
○来年度に引き継ぐ、つなぐことを考えた校務分掌運営、学級学年経営をしていくことが大切である。
○新学習指導要領に沿った指導と評価の研修を行い、改善を図る。
○来年度から児童へのタブレットの支給が始まるので、ICT機器の研修を行い、社会の変化に合わせた指導の工夫を図る。
○コロナ禍における感染症対策を行いながら、実行可能な行事・活動を考えながら、地域・家庭との連携を図る。